

# OpenMeetings3.0.1

## インストールマニュアル

---

(Ubuntu Server 14.04 64bit)

2014/11

発行 : NPO 法人 CCC-TIES



This work is licensed under a [Creative Commons Attribution 3.0 Unported License](https://creativecommons.org/licenses/by/3.0/).

## 内容

---

はじめに .....	4
前提条件 .....	4
凡例.....	4
事前準備 .....	5
Java 開発キットのインストール .....	6
JDK のインストール .....	6
インストール確認 .....	7
環境変数設定 .....	7
MySQL サーバのインストール.....	8
各種ライブラリのインストール.....	8
libreoffice のインストール .....	8
日本語パックの適用 .....	8
freetype のインストール.....	9
画像関連ライブラリのインストール.....	9
ghostscript のインストール.....	10
swftools のインストール.....	11
ffmpeg のインストール.....	12
インストール確認 .....	13
OpenMeetings のインストール .....	14
起動スクリプト作成 .....	14
自動起動登録 .....	16
OpenMeetings 管理者登録 .....	17
OpenMeetings データベース接続設定 .....	17
MySQL コネクタのインストール.....	18
JODConverter のインストール.....	19
OpenMeetings の起動.....	20
OpenMeetings 初期設定 .....	20
インストール画面 .....	20
管理者設定データ入力.....	21
初期設定画面 .....	21
コンバート設定画面 .....	22
OpenMeetings ログイン画面 .....	23
OpenMeetings ログイン画面 .....	24
ファイアウォール設定.....	25

使用ポート番号一覧 .....	25
Moodle プラグインのインストール .....	26
Moodle プラグインチェック .....	26
Moodle プラグイン設定 .....	27

## はじめに

---

本資料では OpenMeetings 3.0.1 のインストール方法について記載しています。

## 前提条件

---

インストールするサーバ OS は「Ubuntu Server 14.04 64bit」を対象とし、パッケージ管理コマンド「apt-get」、ファイル取得コマンド「wget」が使用可能、及びインストールするサーバへ ssh アクセスが可能な状態である事を前提として記載しています。

またインストールは管理者権限を持たないユーザで作業を行う事を前提として記載しています。

なおインストールは特に注記がない限り、最新のバージョンのものをインストールします。

## 凡例

---

サーバ OS 上で実行するコマンドについては、灰色背景で表記しました。

緑色の文字は注記で、コマンドの一部ではありません。

```
$ sudo ufw enable      簡易ファイアウォール機能を有効にする
```

同様に、テキストファイル等への追記・変更については、水色背景で表記しました。

緑色の文字はコマンドと同様に、注記になります。

```
LANG="en_US.UTF-8"
```

## 事前準備

---

初回ログイン後にキー入力がおかしい(例：日本語キーボードを使用しているのに、英語キーボード入力になる)場合は、下記コマンドを実行して日本語キーボード設定に変更してください。

```
$ sudo loadkeys jp
```

また、ログイン後に日本語キーボード設定になるように設定ファイルを変更します。

```
$ sudo vi /etc/profile
```

/etc/profile の末尾に下記の行を追加します。

```
sudo loadkeys jp
```

## Java 開発キットのインストール

---

### JDK のインストール

---

パッケージ管理システムにリポジトリを追加し、jdk7 のインストール準備をします。

```
$ sudo aptitude install software-properties-common
$ sudo add-apt-repository ppa:webupd8team/java
$ sudo apt-get update
```

パッケージ管理システムを使用して jdk をインストールします。

```
$ sudo apt-get install oracle-java7-installer
```

以下のようなライセンス同意確認画面が表示されたら、<Ok>を選択します。

```
| Configuring oracle-java7-installer |
Oracle Binary Code License Agreement for the Java SE Platform Products and JavaFX

You MUST agree to the license available in http://java.com/license if you want to use Oracle JDK.

<Ok>
```

続いてバイナリコードライセンス同意確認画面が表示されたら、<Yes>を選択します。

```
| Configuring oracle-java7-installer |
In order to install this package, you must accept the license terms, the "Oracle Binary Code License Agreement for the Java SE Platform Products and JavaFX ". Not accepting will cancel the installation.

Do you accept the Oracle Binary Code license terms?

<Yes> <No>
```

## インストール確認

---

インストールが完了したら、`java` コマンドで正常に動作するか確認します。

```
$ java -version
```

正常インストールできていれば、下記のようにバージョンが返されます。

```
java version "1.7.0_72"  
Java(TM) SE Runtime Environment (build 1.7.0_72-b14)  
Java HotSpot(TM) 64-Bit Server VM (build 24.72-b04, mixed mode)
```

## 環境変数設定

---

`JAVA_HOME` 環境変数を設定します。

```
$ sudo cp -rp /etc/profile /etc/profile.org   バックアップを作成  
$ sudo vi /etc/profile
```

`/etc/profile` の末尾に下記の行を追加します。

```
export JAVA_HOME=/usr/lib/jvm/java-7-oracle
```

ここまでの変更を適用するため、下記コマンドを実行します。

```
$ source /etc/profile
```

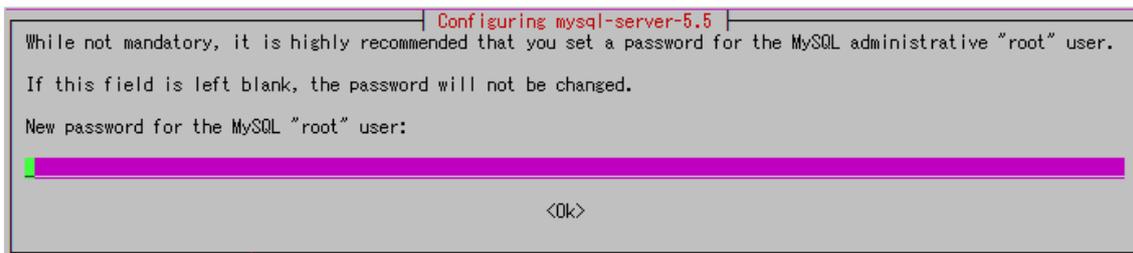
## MySQL サーバのインストール

---

パッケージ管理システムを使用して MySQL サーバをインストールします。

```
$ sudo apt-get install mysql-server -y
```

以下のような MySQL の root ユーザのパスワード設定画面が表示されたら、パスワードの入力を行います。



## 各種ライブラリのインストール

---

パッケージ管理システムを使用して各種ライブラリをインストールします。

```
$ sudo apt-get install imagemagick libt1-5 zip unzip subversion git-core checkinstall yasm texi2html  
libfaac-dev libfaad-dev libmp3lame-dev libSDL1.2-dev libx11-dev libxfixes-dev libxvidcore-dev  
zlib1g-dev libogg-dev sox libvorbis-dev libgsm1 libgsm1-dev libfaad2 lame gcc-multilib autoconf  
automake1.9 libtool -y
```

## libreoffice のインストール

---

パッケージ管理システムを使用して libreoffice をインストールします。

```
$ sudo apt-get install libreoffice -y
```

## 日本語パックの適用

---

パッケージ管理システムを使用して libreoffice の日本語パックをインストールします。

```
$ sudo apt-get install libreoffice-help-ja libreoffice-l10n-ja fonts-takao -y
```

## freetype のインストール

---

フォント関連のライブラリ「freetype」をインストールします。

「freetype-2.4.10.tar.gz」<sup>1</sup> をサーバにアップロードします。

なお、ここでは作業ディレクトリ「/usr/local/src/」にファイルがアップロードされたものとします。

「freetype」ライブラリをインストールする際の作業ディレクトリに移動します。

```
$ cd /usr/local/src/
```

以下、作業ディレクトリにて、「freetype」ライブラリのダウンロード、解凍、コンパイルを行います。

```
$ sudo tar -zxvf freetype-2.4.10.tar.gz
$ cd freetype-2.4.10/
$ sudo ./configure
$ sudo make
$ sudo make install
```

## 画像関連ライブラリのインストール

---

パッケージ管理システムを使用して、画像関連のライブラリをインストールします。

```
$ sudo apt-get install libjpeg-progs libjpeg62 libjpeg62-dev -y
$ sudo apt-get install libgif-dev libgif4 -y
```

---

<sup>1</sup> ファイルは freetype のダウンロードサイトよりダウンロードしたのになります  
<http://download.savannah.gnu.org/releases/freetype/freetype-2.4.10.tar.gz>

## ghostscript のインストール

---

PDF のインポートツールとして「ghostscript」をインストールします。

「ghostscript-9.14.tar.gz<sup>2</sup>」をサーバにアップロードします。

なお、ここでは作業ディレクトリ「/usr/local/src/」にファイルがアップロードされたものとします。

「ghostscript」ライブラリをインストールする際の作業ディレクトリに移動します。

```
$ cd /usr/local/src/
```

以下、作業ディレクトリにて、「ghostscript」ライブラリのダウンロード、解凍、コンパイルを行います。

```
$ sudo tar -zxvf ghostscript-9.14.tar.gz
$ cd ghostscript-9.14 /
$ sudo ./configure
$ sudo make
$ sudo make install
```

---

<sup>2</sup> ファイルは ghostscript のダウンロードサイトよりダウンロードしたのになります  
<http://downloads.ghostscript.com/public/ghostscript-9.14.tar.gz>

## swftools のインストール

---

swf ファイル作成ツールの「swftools」をインストールします。

「swftools-0.9.1.tar.gz<sup>3</sup>」をサーバにアップロードします。

なお、ここでは作業ディレクトリ「/usr/local/src/」にファイルがアップロードされたものとします。

「swftools」をインストールする際の作業ディレクトリに移動します。

```
$ cd /usr/local/src/
```

以下、作業ディレクトリにて、「swftools」のダウンロード、解凍、コンパイルを行います。

```
$ sudo tar -zxvf swftools-0.9.1.tar.gz
$ cd swftools-0.9.1/
$ sudo ./configure
$ sudo make
$ sudo make install
```

---

<sup>3</sup> ファイルは swftools サイトよりダウンロードしたのになります  
<http://www.swftools.org/swftools-0.9.1.tar.gz>

## ffmpeg のインストール

---

フロント関連のライブラリ「ffmpeg」をインストールします。

「ffmpeg-0.11.1.tar.gz<sup>4</sup>」をサーバにアップロードします。

なお、ここでは作業ディレクトリ「/usr/local/src/」にファイルがアップロードされたものとします。

「ffmpeg」ライブラリをインストールする際の作業ディレクトリに移動します。

```
$ cd /usr/local/src/
```

以下、作業ディレクトリにて、「ffmpeg」ライブラリのダウンロード、解凍、コンパイルを行います。なお、インストール途中にディレクトリ作成確認が表示されたら「y」を押下し、以降の確認画面では「enter キー」を押下します。

```
$ sudo tar -zxvf ffmpeg-0.11.1.tar.gz
$ cd ffmpeg-0.11.1/
$ sudo ./configure --enable-libmp3lame --enable-libxvid --enable-libvorbis --enable-libgsm
--enable-libfaac --enable-gpl --enable-nonfree
$ sudo make -k
$ sudo checkinstall
```

ドキュメントを作成するか問われるため、「y」と入力し、Enter キーを押します。

```
The package documentation directory ./doc-pak does not exist.
Should I create a default set of package docs? [y]:
```

パッケージの説明に関して入力が問われるため、Enter キーを押します。

```
Please write a description for the package.
End your description with an empty line or EOF.
>>
```

---

<sup>4</sup> ファイルは ffmpeg サイトよりダウンロードしたのになります  
<http://ffmpeg.org/releases/ffmpeg-0.11.1.tar.gz>

パッケージ内容の構成に変更があるかを問われるため、Enter キーを押します。

```
Enter a number to change any of them or press ENTER to continue:
```

## インストール確認

---

インストールが完了したら、以下のコマンドで正常に動作するか確認します。

```
$ ffmpeg -version
```

正常インストールできていれば、下記のようにバージョンが返されます。

```
$ ffmpeg -version
ffmpeg version 0.11.1
built on Oct 29 2014 10:58:43 with gcc 4.8.2
configuration: --enable-libmp3lame --enable-libxvid --enable-libvorbis --enable-libgsm
--enable-libfaac --enable-gpl --enable-nonfree
libavutil      51. 54.100 / 51. 54.100
libavcodec     54. 23.100 / 54. 23.100
libavformat    54.  6.100 / 54.  6.100
libavdevice    54.  0.100 / 54.  0.100
libavfilter     2. 77.100 /  2. 77.100
libswscale     2.  1.100 /  2.  1.100
libswresample  0. 15.100 /  0. 15.100
libpostproc    52.  0.100 / 52.  0.100
```

## OpenMeetings のインストール

---

「OpenMeetings 3.0.1」をインストールします。

「apache-openmeetings-3.0.1.zip<sup>5</sup>」をサーバにアップロードします。

なお、ここでは作業ディレクトリ「/usr/local/src/」にファイルがアップロードされたものとします。

「OpenMeetings」をインストールする際の作業ディレクトリに移動します。

```
$ cd /usr/local/src/
```

以下、作業ディレクトリにて、「OpenMeetings」の解凍を行います。

```
$ sudo mkdir /opt/red5
$ sudo cp apache-openmeetings-3.0.1.zip /opt/red5
$ cd /opt/red5
$ sudo unzip apache-openmeetings-3.0.1.zip
$ sudo rm apache-openmeetings-3.0.1.zip
```

所有者、及び実行権限を設定します。

```
$ sudo chown -R nobody¥: /opt/red5
$ sudo chmod +x /opt/red5/*.sh
```

## 起動スクリプト作成

---

/etc/init.d に OpenMeetings 起動スクリプトの新規作成を行います。

```
$ sudo nano /etc/init.d/red5
```

/etc/init.d/red5 のスクリプト内容は下記の通りです。

```
#!/bin/sh
#
# red5 red5 initscript
```

---

<sup>5</sup> ファイルは以下のダウンロードサイトよりダウンロードしたのになります  
<http://archive.apache.org/dist/openmeetings/3.0.1/bin/>

```

#
# Author: Simon Eisenmann .
#
set -e
PATH=/usr/local/sbin:/usr/local/bin:/sbin:/bin:/usr/sbin:/usr/bin
DESC="Red5 flash streaming server"
NAME=red5
RED5_HOME=/opt/red5
DAEMON=$RED5_HOME/$NAME.sh
PIDFILE=/var/run/$NAME.pid
SCRIPTNAME=/etc/init.d/$NAME
# Gracefully exit if the package has been removed.
test -x $DAEMON || exit 0
# Read config file if it is present.
if [ -r /etc/default/$NAME ]
then
    . /etc/default/$NAME
fi
#
# Function that starts the daemon/service.
#
d_start() {
    start-stop-daemon --start -c nobody --pidfile $PIDFILE --chdir $RED5_HOME
--background --make-pidfile --exec $DAEMON
}
#
# Function that stops the daemon/service.
#
d_stop() {
    start-stop-daemon --stop --quiet --pidfile $PIDFILE --name java
    rm -f $PIDFILE
}
case "$1" in
    start)
        echo -n "Starting $DESC: $NAME"
        d_start

```

```
echo "."
    ;;
    stop)
echo -n "Stopping $DESC: $NAME"
    d_stop
echo "."
    ;;

    restart|force-reload)
echo -n "Restarting $DESC: $NAME"
    d_stop
    sleep 1
    d_start
echo "."
    ;;

    *)
echo "Usage: $SCRIPTNAME {start|stop|restart|force-reload}" >&2
    exit 1
    ;;
esac
exit 0
exit 0
```

## 自動起動登録

---

起動スクリプトに実行権限を付与し、自動起動登録を行います。

```
$ sudo chmod +x /etc/init.d/red5
$ sudo update-rc.d red5 defaults
```

## OpenMeetings 管理者登録

---

MySQL ユーザの作成により OpenMeetings 管理者を作成します。

以下のコマンド実行時に MySQL の root ユーザのパスワードの確認が行われるので、[MySQL サーバのインストール](#)で入力、設定したパスワードの入力を行います。

```
$ echo "CREATE USER openmeetings@localhost;" | mysql -u root -p
```

```
$ echo "CREATE DATABASE openmeetings DEFAULT CHARACTER SET 'utf8';" | mysql -u root -p
```

下記は *{OpenMeetings 管理者ユーザ名}*、*{OpenMeetings 管理者ユーザパスワード}*をそれぞれ置き換えて、コマンドを入力してください。

```
$ echo "GRANT ALL PRIVILEGES ON openmeetings.* TO '{OpenMeetings 管理者ユーザ名}'@'localhost' IDENTIFIED BY '{OpenMeetings 管理者ユーザパスワード}' WITH GRANT OPTION;" | mysql -u root -p
```

```
$ echo "FLUSH PRIVILEGES;" | mysql -u root -p
```

## OpenMeetings データベース接続設定

---

OpenMeetings データベース接続設定として、[OpenMeetings 管理者登録](#)で作成した管理者情報の登録を行います。

```
$ cd /opt/red5/webapps/openmeetings/WEB-INF/classes/META-INF
$ sudo cp -rp persistence.xml persistence.xml.org   バックアップを作成
$ sudo cp -rp mysql_persistence.xml persistence.xml
$ sudo vi persistence.xml
```

persistence.xml の下部の方にある Username と Password を設定します。

```
Username= {OpenMeetings 管理者ユーザ名}
Password= {OpenMeetings 管理者ユーザパスワード}
```

※なおデフォルトでは「Username=root、Password=」となっています。

## MySQL コネクタのインストール

---

Java からデータベースにアクセスするために必要な「MySQL コネクタ」のインストールを行います。

「mysql-connector-java-5.1.21.zip<sup>6</sup>」をサーバにアップロードします。

なお、ここでは作業ディレクトリ「/usr/local/src/」にファイルがアップロードされたものとして扱います。

```
$ cd /usr/local/src/
```

以下、作業ディレクトリにて、「MySQL コネクタ」の解凍、ファイルコピーを行います。

```
$ sudo unzip mysql-connector-java-5.1.21.zip
```

```
$ cd mysql-connector-java-5.1.21/
```

```
$ sudo cp -rp mysql-connector-java-5.1.21-bin.jar /opt/red5/webapps/openmeetings/WEB-INF/lib/
```

---

<sup>6</sup> ファイルは `mysql` のサイトよりダウンロードしたのになります  
<http://www.mysql.com/downloads/connector/j/>

## JODConverter のインストール

---

PDF 生成に必要な「JODConverter」のインストールを行います。

「jodconverter-core-3.0-beta-4-dist.zip」<sup>7</sup> をサーバにアップロードします。

なお、ここでは作業ディレクトリ「/usr/local/src/」にファイルがアップロードされたものとします。

「JODConverter」をインストールする際の作業ディレクトリに移動します。

```
$ cd /usr/local/src/
```

以下、作業ディレクトリにて、「JODConverter」のダウンロード、解凍、ファイルコピーを行います。

```
$ sudo unzip jodconverter-core-3.0-beta-4-dist.zip
```

```
$ sudo cp -R jodconverter-core-3.0-beta-4 /opt/red5/webapps/openmeetings/
```

---

<sup>7</sup> ファイルは mysql のサイトよりダウンロードしたのになります

<https://jodconverter.googlecode.com/files/jodconverter-core-3.0-beta-4-dist.zip>

## OpenMeetings の起動

---

以下のコマンドを実行し、OpenMeetings の起動を行います。

```
$ sudo /etc/init.d/red5 start
```

## OpenMeetings 初期設定

---

クライアント側のブラウザで、下記アドレスを開き、OpenMeetings の初期設定を行います。

`http://{OpenMeetings サーバの IP アドレスまたは FQDN 名}:5080/openmeetings/install`

※接続ができなかった場合は、ファイアウォールの設定で 5080 番のポートが開放されているか確認を行ってください。

## インストール画面

---

以下のようなインストール画面が表示されるので、画面下部の「Next」ボタンをクリックし、管理者設定を行います。



### Openmeetings

#### Openmeetings - Installation

##### 1. Recommendation for production environment

By default Openmeetings uses the integrated Apache Derby database. For production environment you should consider using [MySQL](#), [Postgres](#) or for example [IBM DB2](#) or [Oracle](#)

##### 2. Enabling Image Upload and import to whiteboard

- Install **ImageMagick** on the server, you can get more information on <http://www.imagemagick.org> regarding installation. The instructions for installation can be found there <http://www.imagemagick.org/script/binary-releases.php>, however on most linux systems you can get it via your favorite package managers (apt-get it)

##### 3. Enabling import of PDFs into whiteboard

- Install **GhostScript** on the server, you can get more information on <http://pages.cs.wisc.edu/~ghost/> regarding installation. The instructions for installation can be found there. however on most linux systems you can get it via

## 管理者設定データ入力

必要最低限のデータとして以下を入力し、画面下部の「Next」ボタンを押下します。

The screenshot shows the 'Openmeetings - Installation' form with the 'Userdata' section. The form fields are: Username (openmeetings), Userpass (empty), EMail (sato@s.codia.co.jp), User Time Zone (Asia/Tokyo), and Organisation (Domains) Name (empty). Callouts point to the Username field ('OpenMeetings 管理者ユーザ情報を入力'), the EMail field ('メールアドレス入力'), the User Time Zone dropdown ('タイムゾーン選択'), and the Organisation Name field ('IP アドレス、またはドメインを入力'). Navigation buttons at the bottom are '< Previous', 'Next >', 'Last', and 'Finish'.

※OpenMeetings 管理者ユーザ情報は「[OpenMeetings 管理者登録](#)」で登録したユーザ名とパスワードになります。

※ここで入力した情報は、OpenMeetings 管理メニューのユーザ管理画面で変更可能です。

## 初期設定画面

管理者設定が完了すると以下のような画面が表示されます。

The screenshot shows the 'Openmeetings - Installation' form with the 'Configuration' section. The form fields are: Allow self-registering (allow\_frontend\_register) (Yes), Send Email to new registered Users (sendEmailAtRegister) (No), New Users need to verify their EMail (sendEmailWithVerificationCode) (No), and Default Rooms of all types will be created (Yes). All fields are dropdown menus.

画面下部にある「Next」ボタンをクリックすると、コンバート設定画面へ遷移します。

## コンバート設定画面

初期設定が完了すると以下のような画面が表示されます。

以下の項目を入力し、画面下部の「Last」ボタンを押下します。

SWFTools path     **/usr/local/bin**  
ImageMagick Path   **/usr/bin/**  
FFMPEG Path        **/usr/local/bin**  
SoX Path            **/usr/bin/**  
JOD Path            **/opt/red5/webapps/openmeetings/jodconverter-core-3.0-beta-4/lib**



### Openmeetings

#### Openmeetings - Installation

**Converters**

SWFTools Zoom   
*DPI that swftools will use for PDF to SWF conversion (default is 100) see also [Installation](#)*

SWFTools JPEG Quality   
*Enter the quality of embedded jpeg pictures to quality. 0 is worst (small), 100 is best (big). (default:85) see also [Installation](#)*

SWFTools Path   
*You can test if swftools is installed into system path by opening a shell or cmd-prompt and type pdf2swf if this shows a list of options leave this field blank otherwise you have to specify the path to pdf2swf on your system see also [Installation](#)*

ImageMagick Path   
*see also [Installation](#)*

FFMPEG Path   
*see also [Installation](#)*

SoX Path   
*see also [Installation](#)*

JOD Path   
*see also [Installation](#)*

OpenOffice/LibreOffice Path for jodconverter   
*The path to OpenOffice/LibreOffice (optional) please set this to the real path in case jodconverter is unable to find OpenOffice/LibreOffice installation see also [Installation](#)*

< Previous    Next >    **Last**    Finish

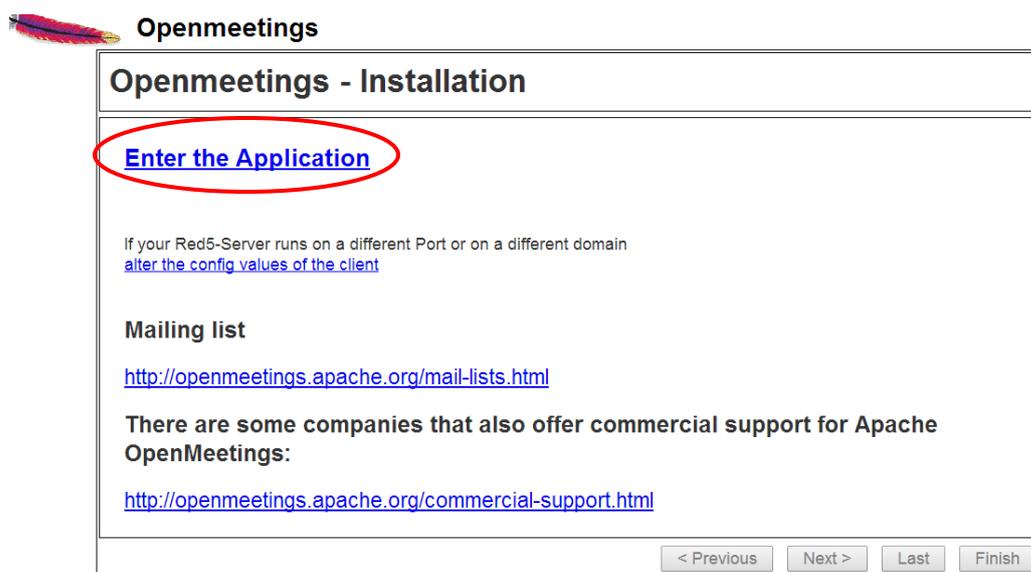
## OpenMeetings ログイン画面

---

コンバート変換設定が完了すると以下のような画面が表示されます。  
画面下部の「Finish」ボタンを押下します。



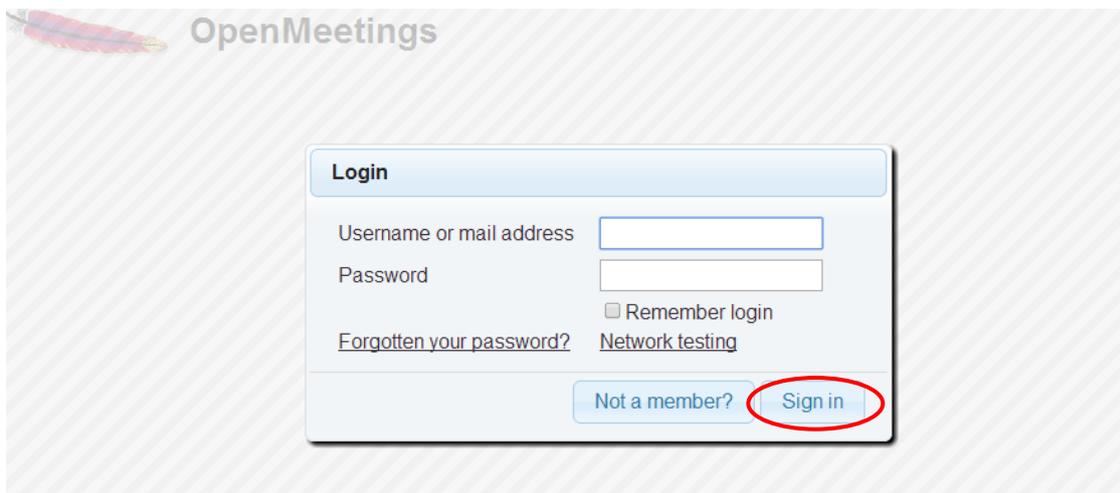
※ インストール完了後、下記の画面が表示されます。「Enter the Application」を押下することで、ログイン画面が表示されます。



## OpenMeetings ログイン画面

---

OpenMeetings ログイン画面が表示されたら、OpenMeetings 管理者アカウントでログインを行います。



※ユーザ： [OpenMeetings 管理者登録](#)にて作成したユーザを入力

※パスワード： [OpenMeetings 管理者登録](#)にて作成したユーザのパスワードを入力

※Moodle 連携を行う前提のため、この画面からのユーザ登録、パスワードリマインダー機能は正常動作しません。

## ファイアウォール設定

---

Ubuntu の簡易ファイアウォールの設定を行います。

以下のコマンドを実行し、状態を確認します。

```
$ sudo ufw status
```

もし Ubuntu の簡易ファイアウォール設定ツールがなければ、インストールします。

```
$ sudo apt-get install ufw
```

ファイアウォールを有効にし、全ての通信を禁止します。

```
$ sudo ufw enable          ファイアウォールを有効にする  
$ sudo ufw default DENY   既定で全通信禁止
```

作業などで必要なポートを開けます。

```
$ sudo ufw allow ssh
```

下記のコマンドを実行して、OpenMeetings で使用する許可するポートを開けます。

```
$ sudo ufw allow 5080/tcp  
$ sudo ufw allow 1935/tcp  
$ sudo ufw allow 8088/tcp
```

誤った許可を削除する場合は、下記のようにします。

```
$ sudo ufw delete allow 1935/tcp
```

## 使用ポート番号一覧

---

OpenMeetings 3.0.1 で使用するポート番号は以下の通りです。

ポート番号	プロトコル	方向
5080	TCP	IN/OUT
1935	TCP	IN/OUT
8088	TCP	IN/OUT

## Moodle プラグインのインストール

### Moodle プラグインチェック

OpenMeetings の Moodle プラグイン「openmeetings」のインストールを行い Moodle にログインすると下記のようなプラグインインストール画面が表示されますので、インストールを行います。

プラグインチェック

このページではアップグレード中、あなたが注意する必要があるプラグインを表示しています。ハイライトされた項目にはインストールされる予定の新しいプラグイン、アップグレードされる予定の更新プラグイン、そして不明のプラグインを含みます。利用可能な更新がある場合、プラグインをハイライトされています。新しいバージョンのプラグインがあるか確認して、このMoodleアップグレードを続ける前にソースコードの更新をお勧めします。

利用可能な更新をチェックする

最終チェック: 2014年 11月 7日 00:46

**あなたの注意が必要なプラグイン数: 1**

インストール済みプラグイン詳細リストを表示する

プラグイン名	ファイル名	ソース	現在のバージョン	新しいバージョン	必要条件	状態
活動モジュール						
OpenMeetings	/mod/openmeetings	追加		2014102101		インストール予定

リロード

Moodleデータベースを更新する

インストールが完了すると下記のような画面が表示されます。

新しいバージョンへのアップグレード

**mod\_openmeetings**

プラグイン名	状態
mod_openmeetings	成功

続ける

## Moodle プラグイン設定

Moodle プラグインの初期設定画面が表示されたら、必要に応じて項目を入力し、変更を保存します。

**Moodle TEST SITE**

以下に表示されている設定は、あなたの直近の Moodle アップグレードで追加されました。必要に応じて変更内容をデフォルトに戻すことができます。

### 新しい設定 - OpenMeetings

**OpenMeetings Server Host or IP**  デフォルト: localhost  
openmeetings\_serverHost

**OpenMeetings Server Port**  デフォルト: 5080  
openmeetings\_serverPort

**OpenMeetings Admin User**  デフォルト: admin  
openmeetings\_adminUser

**OpenMeetings Admin User Password**  マスク解除  
openmeetings\_adminUserPass

**Module Key**  デフォルト: moodle  
openmeetings\_moduleKey  
Advanced setting: OpenMeetings Module key (vary for multiple instances using same OpenMeetings Server)

**OpenMeetings webapp name**  デフォルト: openmeetings  
openmeetings\_webappName  
Advanced setting: If you have renamed the OpenMeetings webapp you can enter your alternative name here.

**Protocol**  デフォルト: http  
openmeetings\_protocol  
Protocol to be used while constructing Openmeetings URLs (default: http)

**OpenMeetings サーバを設定します**

**OpenMeetings 管理者ユーザを設定します**

# OpenMeetings3.0.1 での NFS の設定

---

(Ubuntu Server 14.04 64bit)

2014/11

## 内容

---

はじめに .....	30
前提条件 .....	30
凡例.....	30
NFS の設定 .....	31
使用ポート番号一覧 .....	32

## はじめに

---

本資料では OpenMeetings3.0.1 において、Wowza サーバ間とのファイル連携を行うためのインストール方法（NFS の設定）について記載しています。

## 前提条件

---

インストールするサーバ OS は「Ubuntu Server 14.04 64bit」を対象とし、パッケージ管理コマンド「aptitude」が使用可能、及びインストールするサーバへ ssh アクセスが可能な状態である事を前提として記載しています。

またインストールは管理者権限を持たないユーザで作業を行う事を前提として記載しています。

なおインストールは特に注記がない限り、最新のバージョンのものをインストールします。

## 凡例

---

サーバ OS 上で実行するコマンドについては、灰色背景で表記しました。

緑色の文字は注記で、コマンドの一部ではありません。

```
$ sudo ufw enable      簡易ファイアウォール機能を有効にする
```

同様に、テキストファイル等への追記・変更については、水色背景で表記しました。

緑色の文字はコマンドと同様に、注記になります。

```
LANG="en_US.UTF-8"
```

## NFS の設定

---

OpenMeetings で録画したビデオを Wowza サーバからストリーミング再生できるように、NFS の設定を行います。

```
$ sudo aptitude install nfs-kernel-server nfs-common portmap -y
$ sudo cp -rp /etc/exports /etc/exports.org
$ sudo vi /etc/exports
```

/etc/exports の末尾に下記の行を追加します。

```
/opt/red5/webapps/openmeetings/streams/hibernate [Wowza サーバのホスト名、または IP アドレス](rw,sync,no_subtree_check)
```

変更を適用するため、下記コマンドを実行します。

```
$ sudo exportfs -ra
```

以下、NFS で利用される各ポート番号を固定にします。

```
$ sudo cp -rp /etc/default/nfs-common /etc/default/nfs-common.bk
$ sudo vi /etc/default/nfs-common
```

/etc/default/nfs-common の STATDOPTS の設定値を以下の通り入力します。

```
STATDOPTS="--port 50003 --outgoing-port 50004"
```

```
$ sudo cp -rp /etc/default/nfs-kernel-server /etc/default/nfs-kernel-server.bk
$ sudo vi /etc/default/nfs-kernel-server
```

/etc/default/nfs-kernel-server の RPCMOUNTDOPTS の設定値を以下の通り入力します。

```
RPCMOUNTDOPTS="-p 50002"
```

```
$ sudo vi /etc/modprobe.d/local.conf
```

/etc/modprobe.d/local.conf に下記行を追加します。

```
options lockd nlm_udpport=50001 nlm_tcpport=50001
```

設定を反映させるために再起動を行います。

```
$ sudo reboot
```

## 使用ポート番号一覧

---

使用されるポート番号は以下の通りです。

ポート番号	プロトコル	方向
111	TCP/UDP	IN/OUT
2049	TCP/UDP	IN/OUT
50001-50003	TCP/UDP	IN/OUT

以上